

証券コード:7472

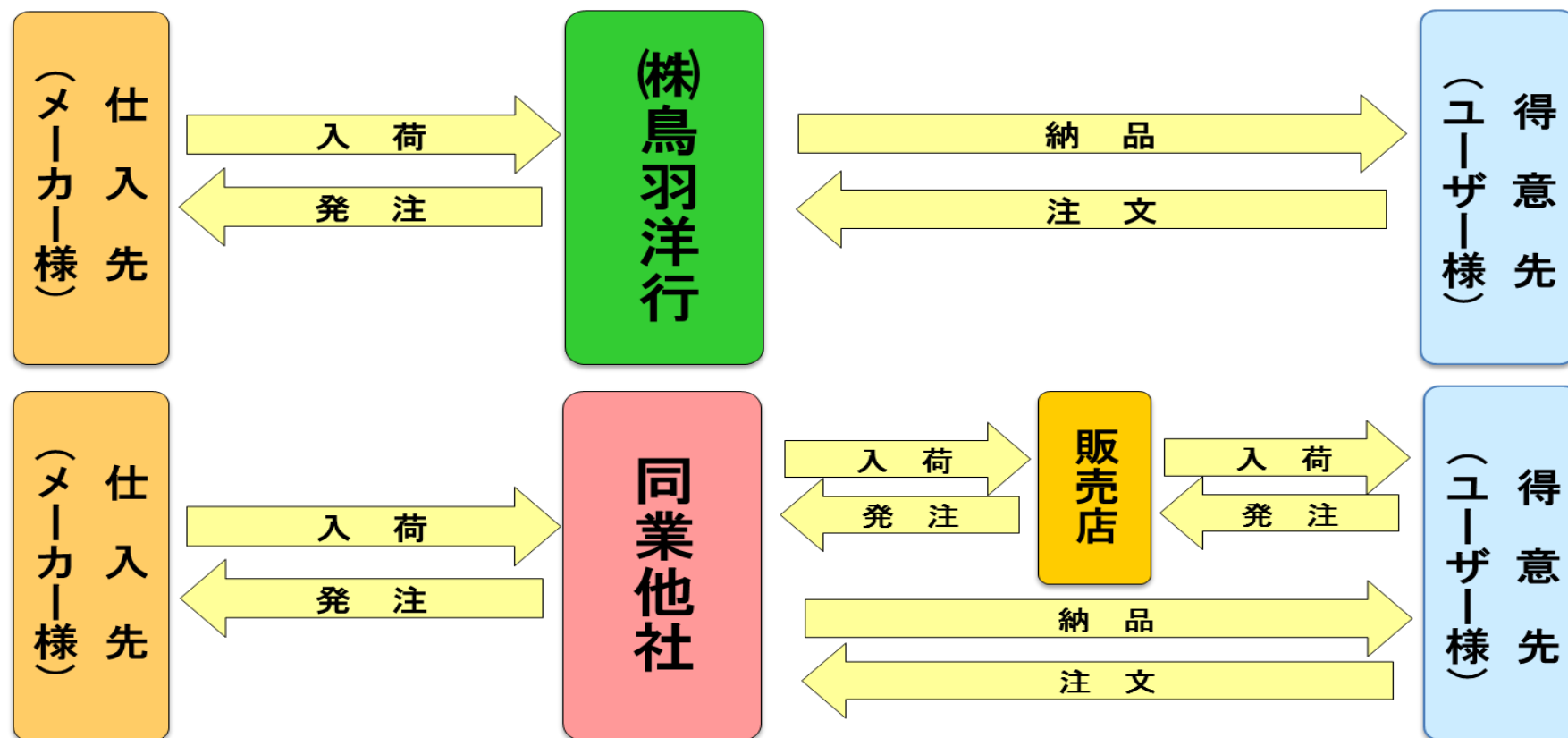
“百年の信頼を、未来につなげる”

株式会社鳥羽洋行
中間決算説明会

2019年11月21日(木)

- I . (株)鳥羽洋行について
- II . 2020年3月期中間決算について
- III . 2020年3月期の見通し及び戦略

<当社のビジネススタイル>



Point !

- 『直接仕入』⇒ 仕入先様から直接製品を購入
- 『直接販売』⇒ ユーザー様工場に直接訪問し販売（直販体制）

＜当社の取扱い商品例＞

制御機器



エアシリンダー



バルブ



センサー

F A 機器



産業用ロボット



マウンター（実装機）



レーザー溶接機

産業機器



電動ドライバー

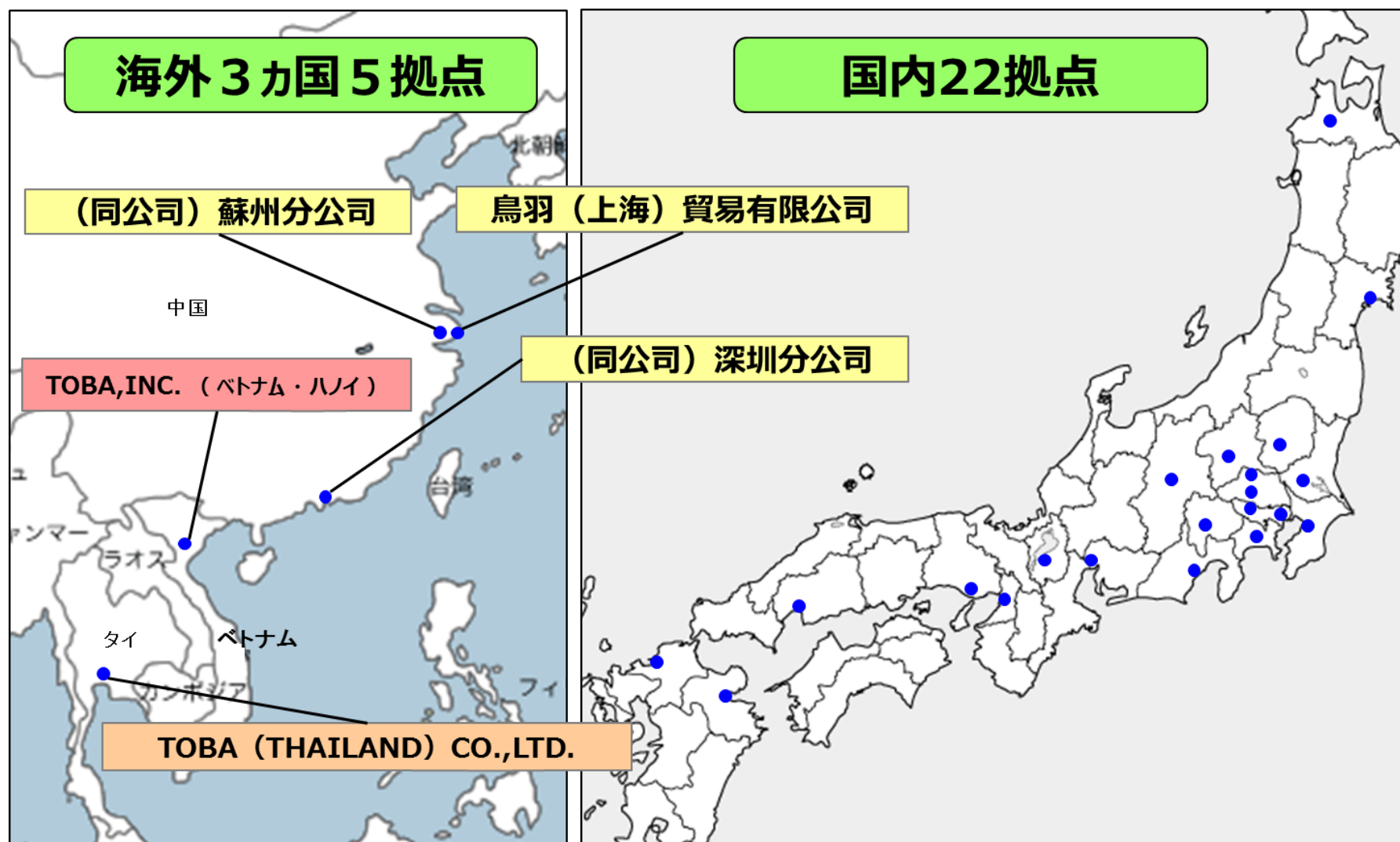


ベルトコンベア



電気チェーンブロック

<当社の販売ネットワーク>



Ⅱ． 2020年3月期中間決算について

Ⅱ．2020年3月期中間決算について



株式
会社

鳥羽洋行

< 2020年3月期 2 Q 連結損益計算書の概要 >

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	
	中 間	中 間	
	実 績	実 績	前年同期比
売 上 高	14,370	12,169	△15.3
営 業 利 益	969	614	△36.6
経 常 利 益	1,028	677	△34.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	709	462	△34.8

Ⅱ．2020年3月期中間決算について

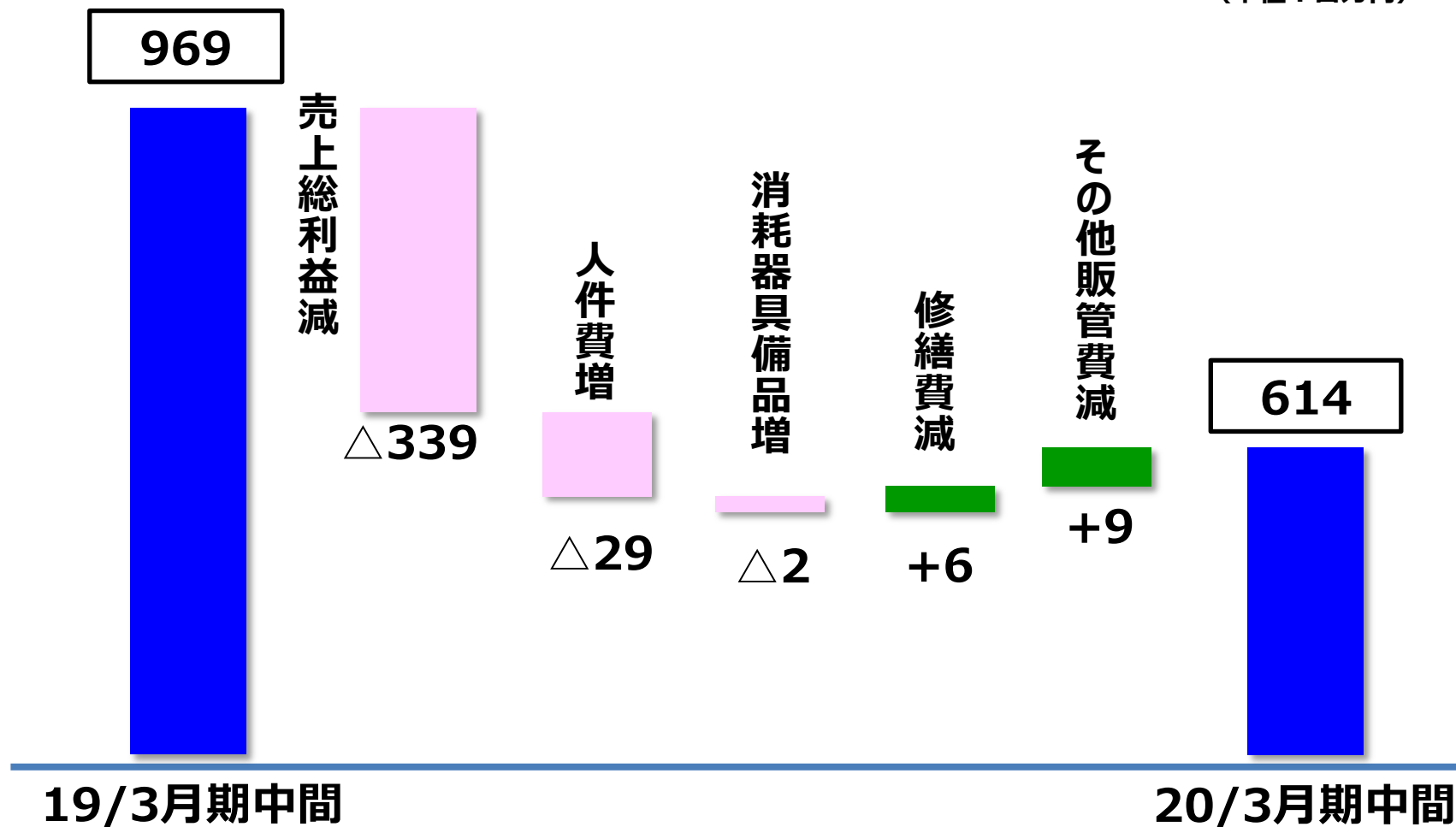


株式
会社

鳥羽洋行

<連結営業利益増減分析>

(単位：百万円)



※数値は百万円未満を切り捨てて表記しております。

Ⅱ. 2020年3月期中間決算について

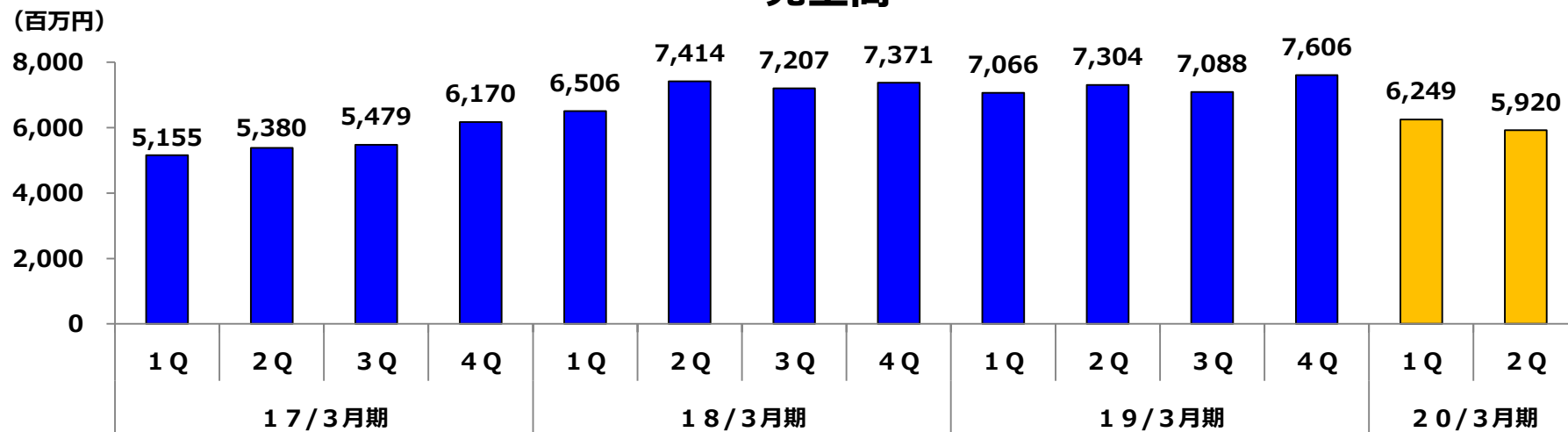


株式会社

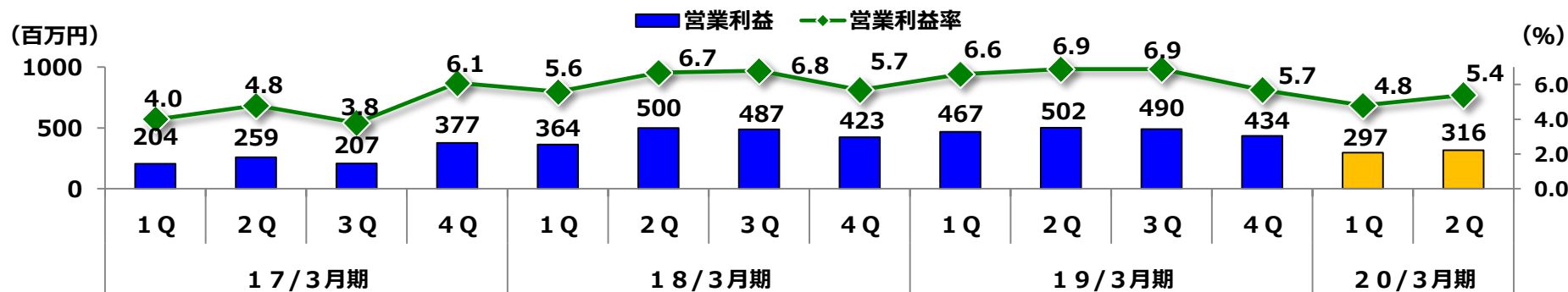
鳥羽洋行

＜四半期毎の売上高・営業利益の推移＞

売上高



営業利益/営業利益率



Point !

● 四半期毎の売上高は60億円前後で推移

Ⅱ. 2020年3月期中間決算について

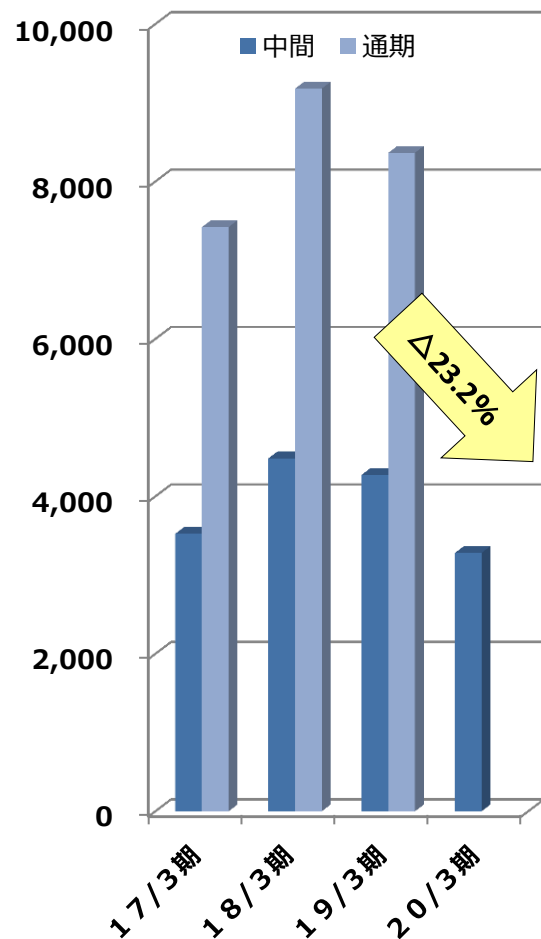


株式
会社

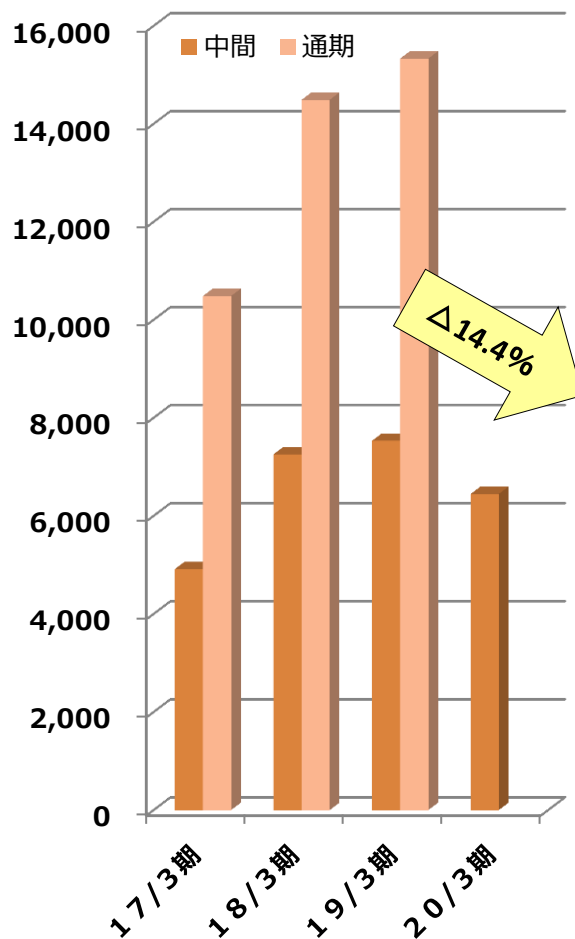
鳥羽洋行

<部門別売上高推移>

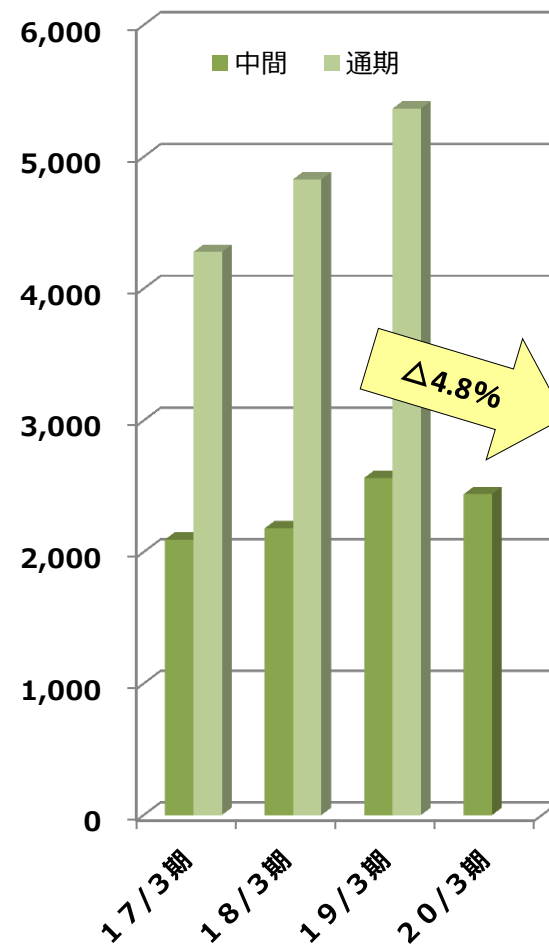
(百万円) 制御機器



(百万円) F A機器

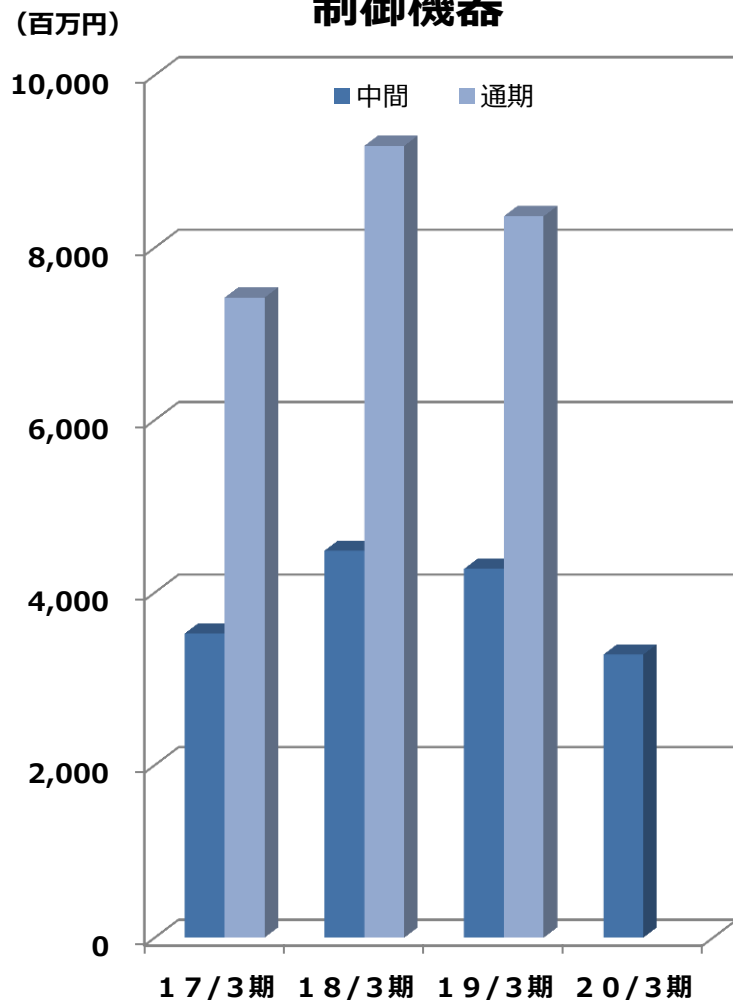


(百万円) 産業機器



<部門別売上高推移>

制御機器



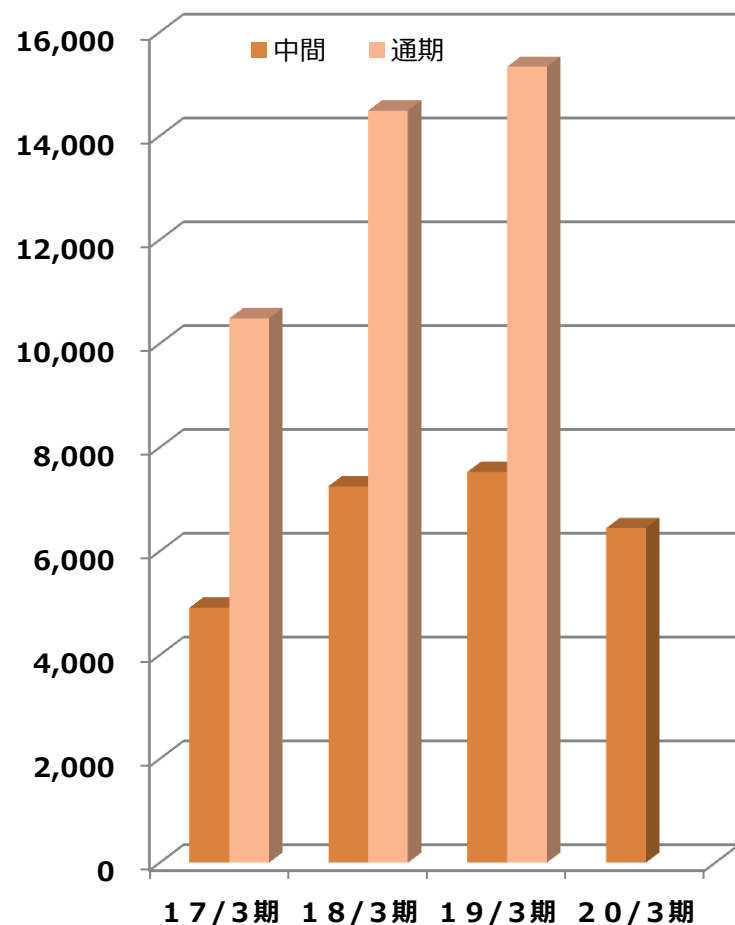
前年同期比
23.2%減

- 半導体市場の減速の影響を受け、空気圧機器の販売が減少

<部門別売上高推移>

F A 機器

(百万円)

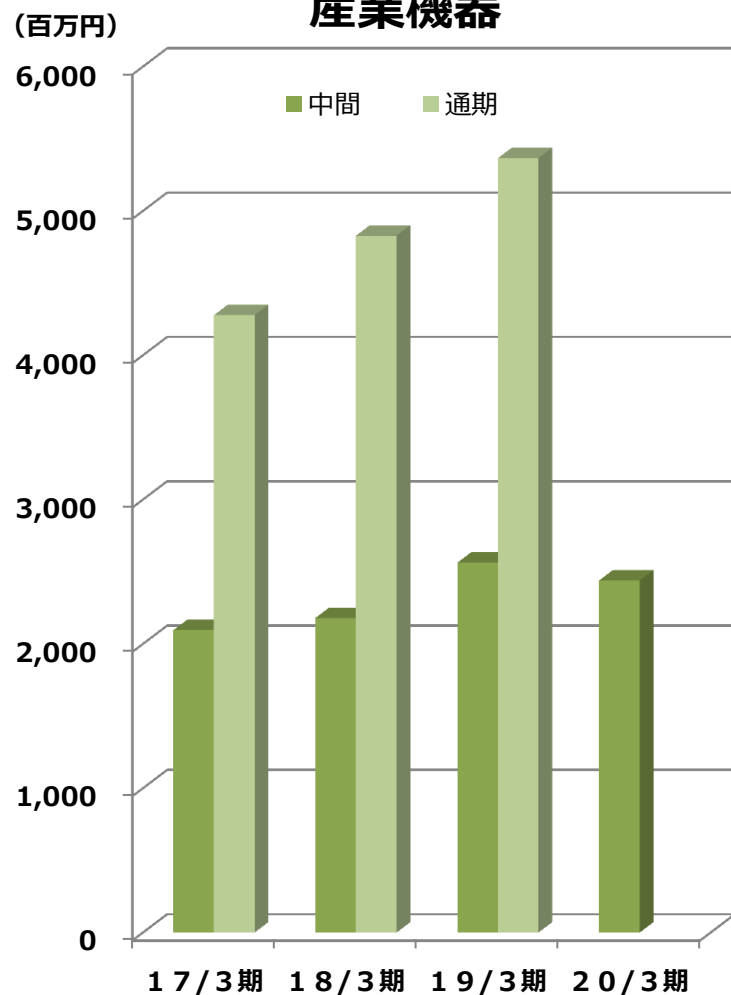


前年同期比
14.4%減

- 一部の車載部品関連得意先からの受注は堅調だったが、半導体や電子部品関連の受注が減少

<部門別売上高推移>

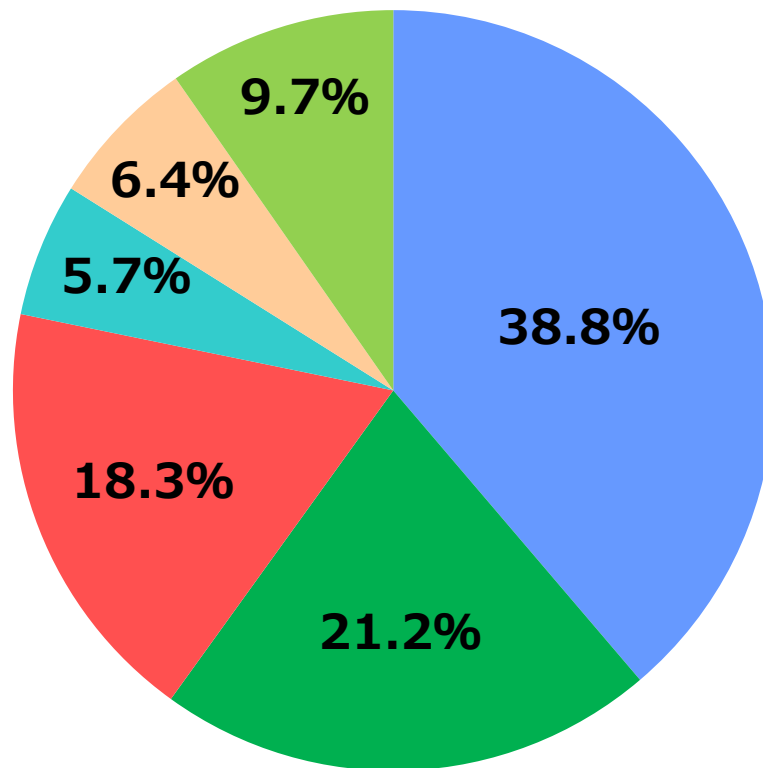
産業機器



前年同期比
4.8%減

- 国内の幅広い得意先における設備投資は減少したが、半導体向け消耗品であるろ過フィルターは堅調に推移

<得意先の業種別売上の構成比（単体）>



- 半導体・液晶及び電子部品
- 自動車・車載部品
- 伝導・F A・精密
- 医療・食品
- 環境・エネルギー
- その他

<得意先の業種別売上の動向（単体）>

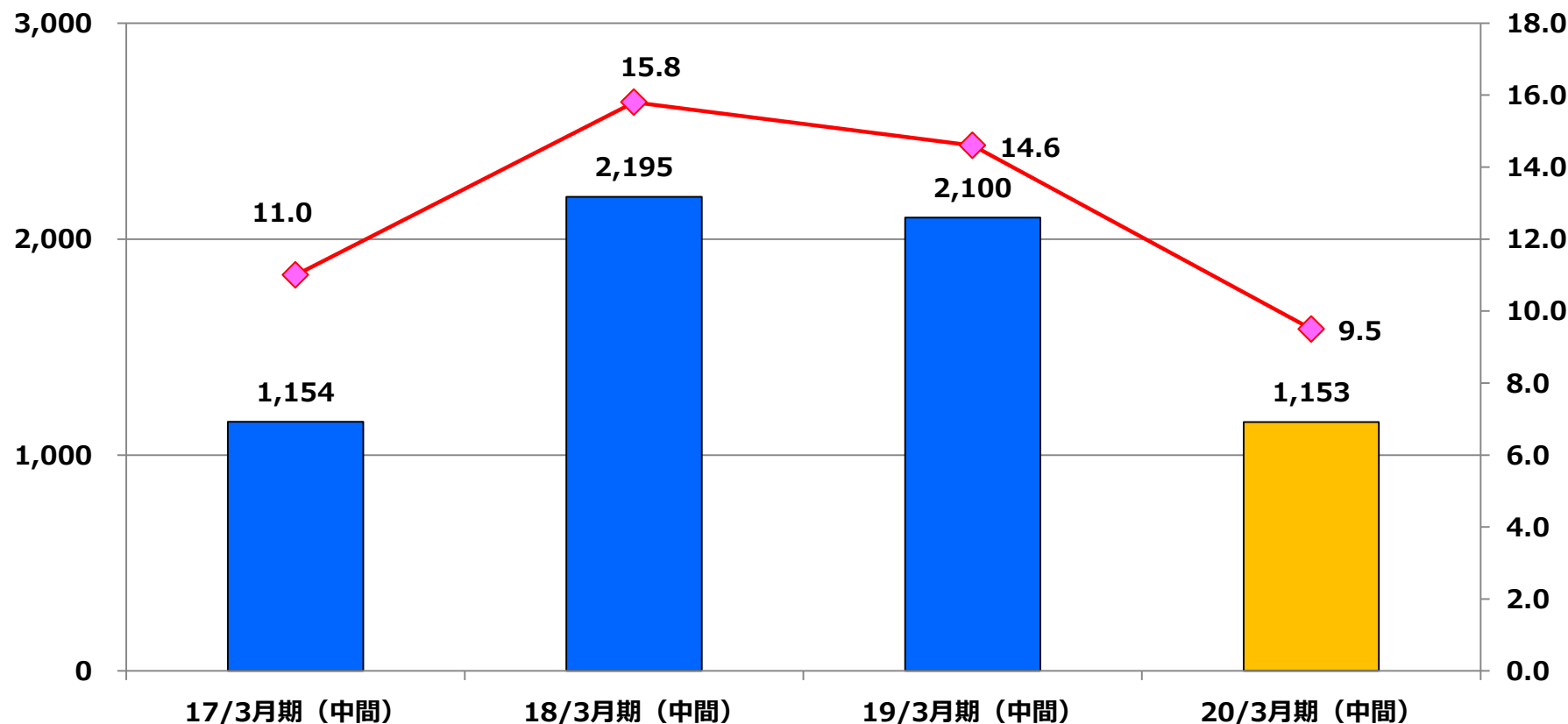
得意先の業種	前年同期比 （増減率）	主 な 要 因
半導体・液晶及び電子部品	△21.4%	米中貿易摩擦や半導体市場の在庫調整の影響を受け、半導体および半導体・液晶製造装置に関連する得意先からの受注が大きく減少
自動車・車載部品	+15.5%	当社が注力している自動車・車載部品関連の一部得意先への装置案件受注が堅調に推移
伝導・F A・精密機器	△21.8%	物流システムや工作機械等に関連する得意先向けへの制御機器の販売が減少
医療・食品関連	+2.9%	
環境・エネルギー関連	+34.8%	E V・ハイブリッド車向けの電池関連の得意先向けに販売が増加
その他	△2.2%	

<海外売上高・海外売上比率>

(単位：百万円)

■ 海外売上高 ◆ 海外売上比率

(単位：%)



Point !

- 米中貿易摩擦等の影響により、F A 機器の受注が減少し
鳥羽（上海）貿易有限公司の売上高が前年割れしたことが主因

Ⅱ. 2020年3月期中間決算について



株式会社

鳥羽洋行

<2020年3月期 2 Q 連結貸借対照表の概要>

(単位：百万円)

	19/3月末	構成比 (%)	19/9月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	22,163	81.3	19,098	77.1	
現金・預金	10,712	39.3	10,333	41.7	
受取手形・売掛金 ※1	11,309	41.5	8,497	34.3	売上高減による売上債権減少
商品	97	0.4	197	0.8	
固定資産	5,113	18.7	5,658	22.9	
資産合計	27,277	100.0	24,756	100.0	
流動負債	9,898	36.3	7,393	29.9	
支払手形・買掛金 ※2	9,057	33.2	6,827	27.6	仕入高減による仕入債務減少
固定負債	314	1.2	339	1.4	
負債合計	10,213	37.4	7,733	31.2	
純資産合計	17,064	62.6	17,023	68.8	
負債純資産合計	27,277	100.0	24,756	100.0	

(※1) 電子記録債権を含む

(※2) 電子記録債務を含む

Point !

- 売上高・仕入高の減少により売上債権及び仕入債務が減少

＜連結キャッシュ・フロー計算書の概要＞

(単位：百万円)

	19/3月期 中間	20/3月期 中間	キャッシュ・フローの状況
営業活動によるC F	897	673	税金等調整前四半期純利益の計上 (+6億77百万円) 売上債権の減少 (+27億95百万円) 仕入債務の減少 (△22億22百万円) 法人税等の支払 (△3億25百万円)
投資活動によるC F	△22	△518	定期預金の預入 (△5億円)
財務活動によるC F	△433	△519	配当金の支払 (△5億19百万円)
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△3	△13	
現金及び現金同等物 の増減額	437	△378	
現金及び現金同等物 の期首残高	9,031	10,211	
現金及び現金同等物 の期末残高	9,468	9,833	

Ⅲ． 2020年3月期の見通し及び戦略

<2020年3月期の業績予想>

(単位：百万円)

	19/3月期 (実績)	20/3月期 (予想)	前期比 (増減率)
売 上 高	29,066	26,000	△10.5%
営 業 利 益	1,895	1,400	△26.1%
営 業 利 益 率	6.5%	5.4%	△1.1 P
経 常 利 益	2,004	1,500	△25.2%
経 常 利 益 率	6.9%	5.8%	△1.1 P
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	1,370	1,030	△24.8%
当 期 純 利 益 率	4.7%	4.0%	△0.7 P

※2019年10月31日に業績予想の修正を実施しました

＜2020年3月期下期の市場環境＞

◆国内の市場環境

＜現況＞

- ▶ 米中貿易摩擦や、欧州経済の減速など世界経済は減速傾向が続いており、輸出企業の業績が悪化。国内企業の多くも業績の悪化が続いており、設備投資に消極的な傾向が継続

＜各カテゴリーの今後の見通し＞

- ▶ 自動車・車載部品分野については、次世代技術であるC A S Eの導入が進んでおり、事業再編等が加速。E VやH Vなどの開発が継続し、電子部品や電池関連の得意先の設備投資は底堅く推移していくものと予想
- ▶ 半導体及び半導体・液晶製造装置に関連する得意先の設備投資は、半導体の在庫調整局面が下期後半頃に終焉し、下期前半は踊り場状態が続くものの、CMOS等の増産の報道もあり後半には回復に転ずると予想
- ▶ スマートフォンに関連する得意先は、2020年より本格導入される次世代通信システム「5 G」の開発等に伴い、設備投資は増加していくものと予想

<2020年3月期下期の市場環境>

◆海外の市場環境

<現況>

- ▶ 米中貿易摩擦や英国のE U離脱問題、中東情勢など不安材料が多々あり、世界経済全体の減速傾向が続いている

<今後の見通し>

- ▶ 米中貿易摩擦の長期化が最大の懸念材料であるが、中国国内の内需は底堅く推移しており、内需型企業の設備投資需要は堅調に推移するものと予想。しかし、輸出型企業の業績悪化は顕在化しており、生産拠点を他国へ移転する動きなど注視していく
- ▶ スマートフォンの中国国内の需要は旺盛を維持しており、5 G向け等を含め設備投資は増加していくものと予想
- ▶ 中国国内の自動車産業は販売台数の減少は見られるものの、依然として底堅く推移している。電気自動車や次世代技術導入も進んでいるため、それらに関連する電子部品や電池関連の得意先の設備投資が引き続き拡大していくものと予想

<2020年3月期の戦略①>

◆既存得意先への拡販と新規得意先の開拓

- ▶ 当社**主要得意先**である半導体・液晶、電機、電子部品関連及び自動車・車載部品等への設備投資需要の取り込み
- ▶ 次の核となる**新規得意先**の開拓活動の強化
- ▶ 三品産業など**人手不足**を課題としている得意先への、ロボット、自動化・省力化機器の販売を積極的に展開
- ▶ **CBS25**（カービジネスシェア25%）
ADAS、AI、自動運転、EVなどCASE向け需要の取り込み
- ▶ 「**5G**」に関連する得意先の設備投資需要の取り込み
- ▶ 数年後の成長を見据えた**Eビジネス**の確立（出展商品の拡充など）

<2020年3月期の戦略②>

◆売上拡大施策

- ▶ 当社主催『**複合展示会**』の開催により、販売商品幅の拡大
- ▶ **大型展示会**へ出展し新規優良顧客の獲得
 - ① **東京ビッグサイト**：『第2回 自動化・省人化ロボット展』（2019年7月24～26日）
 - ② **インテックス大阪**：『第22回 関西 機械要素技術展』（2019年10月2～4日）

各展示会のご来場者様へ拡販活動

◆新商材の発掘

- ▶ レーザー機器、ろ過機器（日本インテグリス）につづく新たな商材を発掘

◆海外拠点強化

- ▶ 海外子会社との連携強化（情報共有し当社販売網の活用）

＜本年度出展した展示会の模様＞

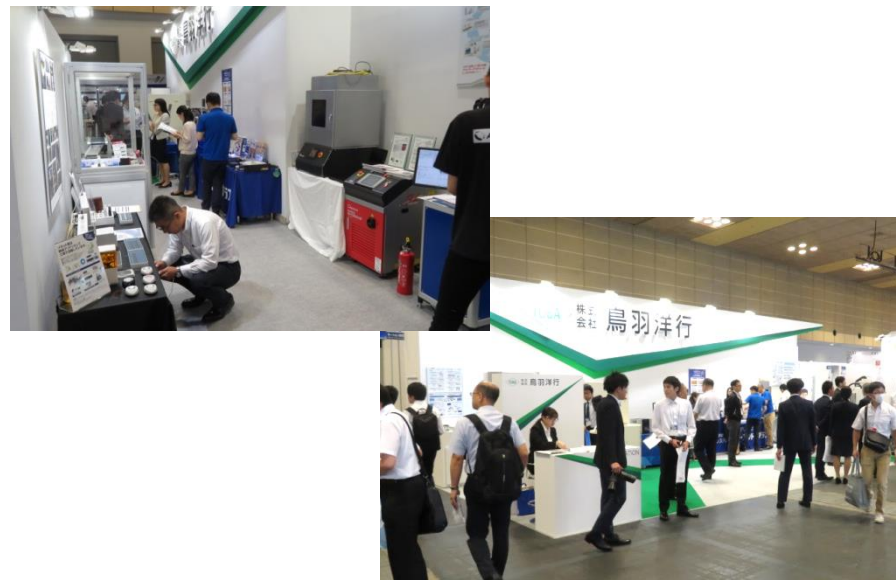
＜第2回自動化・省人化ロボット展 概要＞

- 日程：2019年7月24日～26日
- 会場：東京ビッグサイト



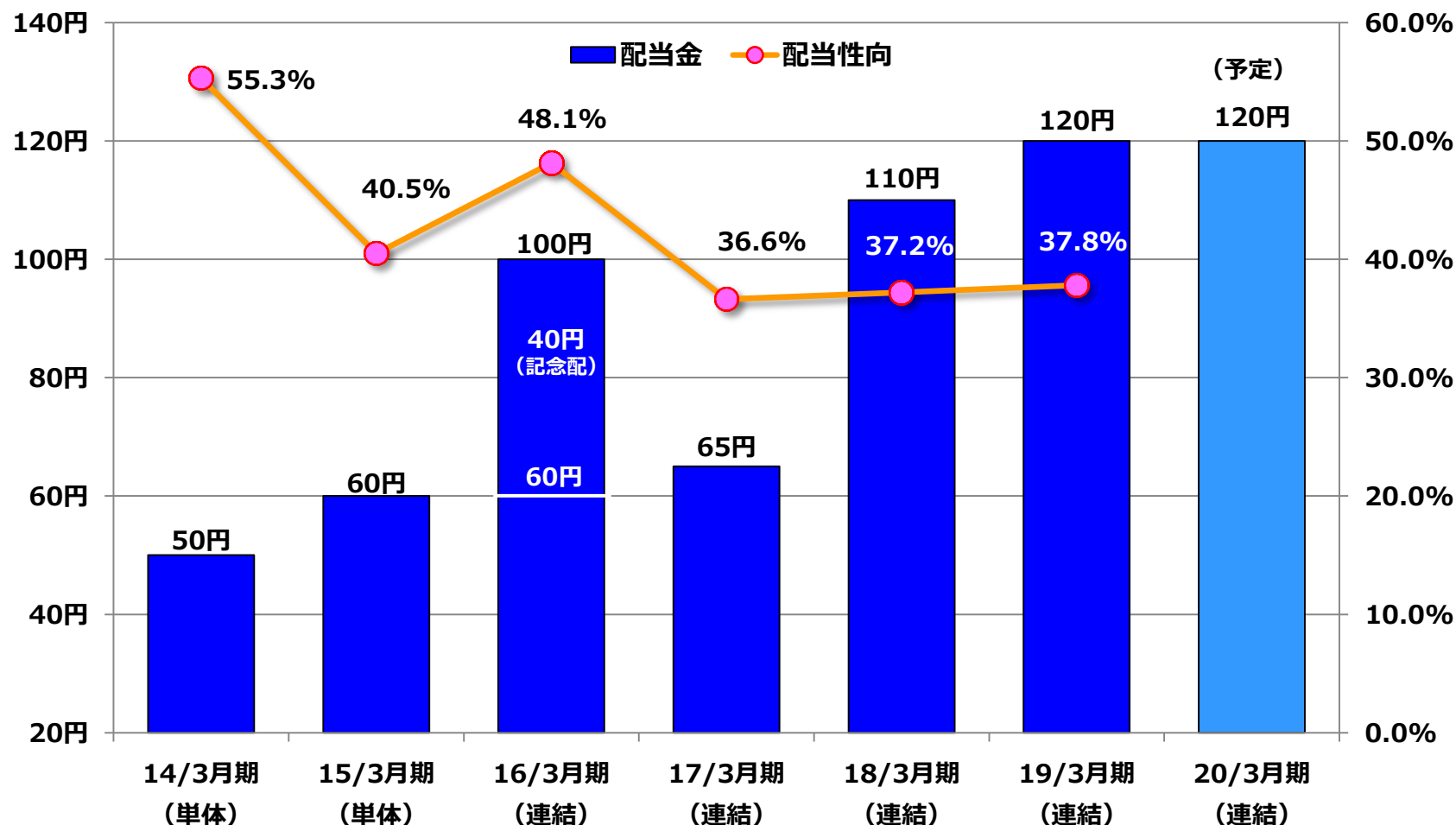
＜第22回 関西 機械要素技術展 概要＞

- 日程：2019年10月2日～4日
- 会場：インテックス大阪



各展示会では、協調型ロボットや自動化・省人化機器、生産工程の供給から排出までの一貫ラインをイメージした搬送系などを展示しました。結果、関東では昨年を上回り、関西でも多数のご来場をいただきました。

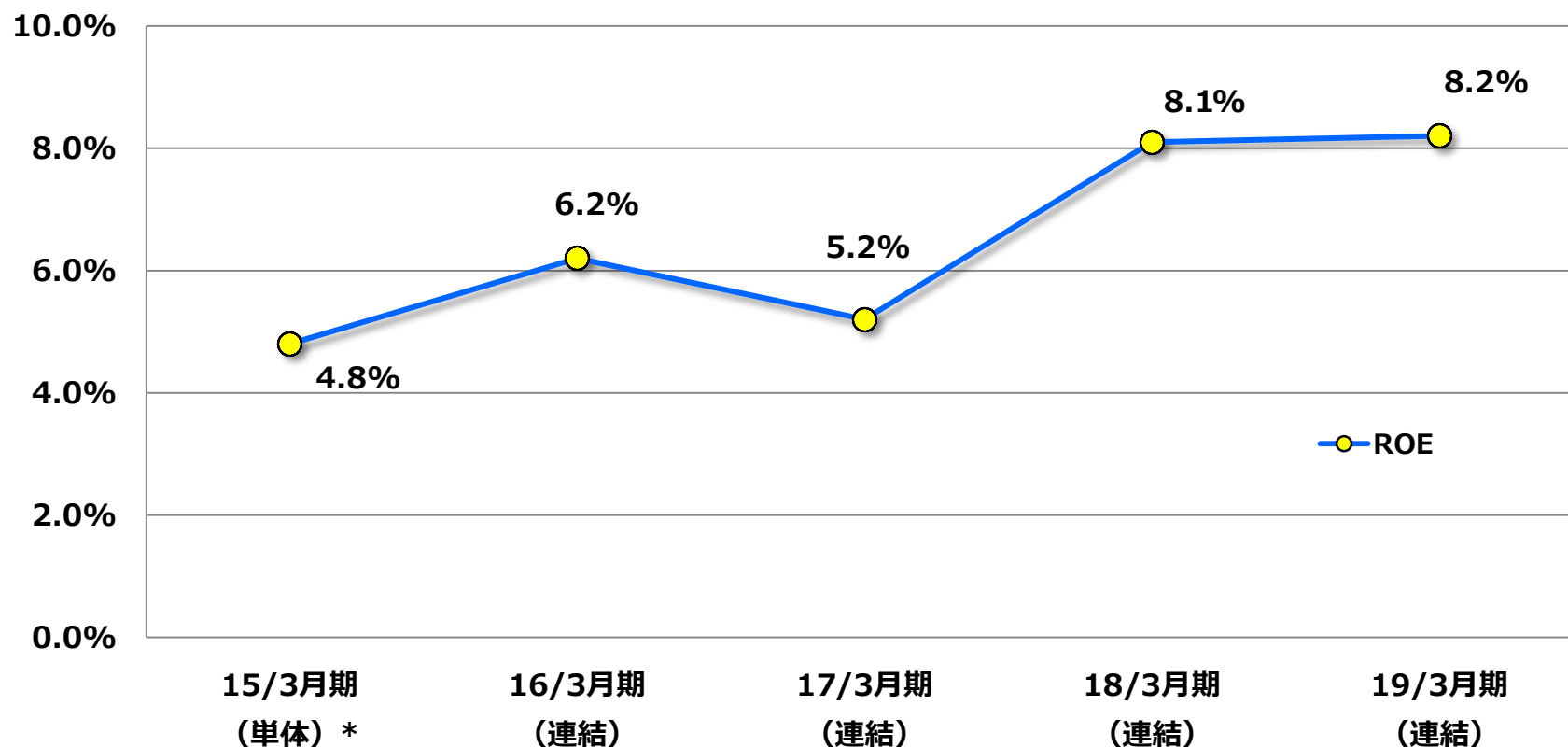
＜1株当たりの配当金及び配当性向の推移＞



※16/3月期については、創業110周年記念の記念配当金40円が含まれております。

※配当性向については、16/3月期より連結での数字で計算しております。

< R O E の推移（19年3月期まで） >



* 15/3月期の R O E は単体ベース

この資料には、2019年11月18日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではございません。

[問い合わせ先]

株式会社 鳥羽洋行

管理本部総務グループ I R 担当

住 所：〒112-0005

東京都文京区水道 2 丁目 8 番 6 号

電話番号：03-3944-4031

F A X：03-3944-4091

E メール：kanri-01@toba.co.jp